

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 (最終))

和庄中学校区 校番13 学校名 呉市立和庄小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
<p>★★</p> <p>確かな学力</p>	<p>○ 貫 学力の向上</p>	<p>主体的・対話的で深い学びにつながる思考力・判断力の育成</p> <p>自分の命は自分で守る児童の育成</p>	<p>【標準学力調査】国語:C 算数:C ▲国語では情報の整理及び書くこと分野において、算数では低学年では測定、中学年では数と計算、図形、高学年では変化と関係の分野において、課題が見られた。 【単元末テスト】:国語 B 算数 C ○Qubenaを積極的に取り組む児童が増えた。各学年の発達段階に応じて、授業の中で思考ツールを活用した。 ▲漢字の定着、基礎的な計算に課題が見られた。また、問題文の題意を正しく理解することが難しい場面もあった。 ▲言葉の意味理解や読む力を高める必要がある。</p> <p>【起こりやすい災害】:A 【避難場所や避難の仕方】:A ○自分の地域に起こりやすい災害を取り上げたり、携帯マニュアル・防災ハザードマップの確認を全体指導と個別指導を組み合わせで行ったりしたことで、災害・避難場所・避難の仕方がよくわかっていない児童に効果的に指導することができた。 ○アンケート方法を改善したことにより、避難場所・避難の仕方に関する意識を明確にもつことにつながった。 ▲時間がたってしまうと、自分の住んでいる地域に起こりやすい災害や、避難場所、避難の仕方などがわからなくなる児童がいるため、継続的に取り組みを行う必要がある。</p>	<p>・1月を学力強化月間とし、学級実態における課題分析を行い、スキルタイムや授業における改善計画を立てた。漢字のミニテストや計算プリント、Qubenaを利用して、基礎的・基本的な事項の確実な定着を図った結果、学力向上に向けた取り組みの成果が見られた。更に、子供たちが自ら主体的に学べるよう、個別指導及びQubenaの活用を継続していく。 ・題意を理解して答えることができるよう、教科書の音読、読書指導の充実を図る。</p> <p>・防災教育に当たっては、住んでいる地域の実態に応じた学習、「土砂災害」「地震・津波」についての学習を計画的に行う。より実践的、探究的な学習となるように工夫していく。 ・避難訓練や一斉下校などの訓練の際に、起こりやすい災害や避難場所・避難の仕方について確認を行う。 ・取り組みを継続的にを行い、全体指導と個別指導を組み合わせつつ評価を適切に行い、児童の理解を深めていき、自分の命は自分で守る児童の育成を目指す。</p>
<p>★★</p> <p>豊かな心</p>	<p>和庄中学校区 スピリットに基づく児童の育成</p> <p>○ 貫 礼儀正しく感謝の心をもつ児童の育成</p>	<p>粘り強くやり抜く児童の育成</p> <p>○ 貫 礼儀正しく感謝の心をもつ児童の育成</p>	<p>【粘り強く取り組む】:A ○学期のめあてを振り返った。 ▲一人ひとりの頑張りを見取り、評価することが難しかった。今後は、学校全体、学年での活動でめあてを持たせ、振り返りを行う必要がある。 ○高学年で「自分には良いところがない」と否定的な回答をした児童があったが、DOHMの取組を進めると、肯定的な回答になっている。 【礼儀正しく】:A ○あいさつをする取組を計画委員会が中心となりすすめ、あいさつが増えてきている。児童同士のあいさつも増えた。 ○下足場のくつ揃えに対してカップを置いて評価し、丁寧に揃えている児童が増えた。 ▲靴揃えができてきたが、トイレのスリッパがまだ揃わないことが多い。少しずつではあるが、全てのスリッパを揃えている児童が増えている。</p>	<p>・活動をする前にめあてを考え、振り返りをする時間を設定し、「粘り強くやり抜く」を目標に取組を進める。特に、そうじ時間、朝会時に全体でめあてを確認、活動後に振り返りをさせ、評価を行う。 ・振り返りの際には、自己評価、相互評価を行う時間を設定する。 ・委員会活動で考えた取組を全校に知らせて取り組むことで、児童の様子に変容が見られたことから、今後も生活朝会を通して、児童の実態に合わせた取組を委員会と考え、全校で取り組めるように計画する。 ・2学期からのDOHMの取組を継続し、「自分には良いところがある」と言える児童を増やす。特に、否定的回答をしている児童への働きかけをより工夫していく。</p>
<p>★</p> <p>たくましい体</p>	<p>○ 貫 健康促進・体力の向上</p>	<p>体力・運動能力の向上</p> <p>基本的な生活習慣の確立</p>	<p>【体力・運動能力の向上】:B ○本校が継続的に取り組んでいるすっきり体操やボール投げなどは成果が出ており、ソフトボール投げや長座体前屈は全国平均と比較してもよい結果が出ている。 ○11月の記録が6月の記録を上回る学級が70%であった。 ○チャレンジマッチスタジアムに全学級で年間通して取り組めた。 ▲握力は特に全国平均と比較して低い結果となっており、6月から11月にかけて記録の伸びが少ない。</p> <p>【基本的な生活習慣】:A アウトメディアについて、1週間の生活実態調査を行った。 ○21時以降のアウトメディアについては、目標値を達成できた。 ○全校朝会を利用して、元気っ子週間への呼びかけを行ったことで、児童の意識を高めることができた。</p>	<p>・チャレンジマッチスタジアムの参加、体育科の授業での運動量を増やす工夫を行う。 ・コーディネーション運動やその日の授業内容に合った準備運動、体力向上に効果的な運動を授業に取り入れられるよう具体的な研修を行う。 ・体育の時間における運動時間の割合を高める工夫を検討し実施する。 ・中学校の先生と連携し、指導の専門性を高め、運動の質を高める。 ・保健指導や学級指導を通じて、アウトメディアの必要性と利用時間、利用環境について指導していく。また、スマートフォンなどの電子機器をもつ児童の割合や、何に使用しているかなどの実態を調査する。 ・元気っ子週間の呼びかけの方法について検討し、呼びかけを継続して行う。</p>
<p>業務改善</p>	<p>教職員の主体性・積極性が発揮できる教育環境の整備</p>	<p>児童と向き合う時間の確保</p>	<p>【児童と向き合う時間の確保】:A ○休憩時間に子供たちと一緒に遊んだり、放課後に教室で補習をおこなったりして、子供たちに寄り添い、励ましている教職員が多い。</p>	<p>・子供の対応について担任だけでなく、養護教諭や管理職が情報を共有することで、個に応じた支援体制や支援方法を行っていくようにする。</p>